

Ⅱ 国語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ・「大問・領域」には「読むこと」（文学的な文章と説明的な文章）「書くこと」「言語事項」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ・調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「○ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
 - ・分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。
- （※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

大問・領域	小問	問のねらい	観点別評価					
			関 意 態	話 ・ 聞	書 く	読 む	言 語	
(文学的文章) 読むこと	1	問1	表現に注意しながら文章を読み、登場人物の心情をとらえることができる。				○	○
		問2	文章の内容を正確にとらえ、適切な表現を指摘することができる。				○	
		問3	表現の仕方や文章の特徴に注意して、登場人物の心情や人間関係について説明することができる。			○	○	
		問4	表現に即して、具体的な内容を読み取ることができる。				○	
		問5	本文の展開に即して、内容をとらえることができる。				○	
(説明的文章) 読むこと	2	問1	指示語が示す内容を適切に読み取ることができる。				○	
		問2	文章の展開に即して、適切な接続語を指摘することができる。				○	○
		問3	表現に即して、具体的な内容をとらえることができる。				○	
	問4	a	文章の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができる。				○	
	b							
	問5	慣用句の効果的な使い方を理解し、内容の理解に役立てることができる。				○	○	
(漢字の読み書き) 言語事項	3	1	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことができる。					○
		2						○
		3						○
		4						○
		5	小学校6年生までに学習した漢字を正しく読むことができる。					○
		6						○
		7						○
		8						○
(漢字の読み書き以外) 言語事項	4	問1	同音の漢字の意味の違いを捉え、文脈に沿って適切な漢字を選択して書くことができる。					○
		問2	故事成語の意味をことわざと関連付けてとらえることができる。					○
		問3	文中から「主語・述語」の関係を正しくとらえることができる。					○
		問4	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。					○
		問5	行書の書き方について理解し、行書の文字を楷書でとらえることができる。					○
(書くこと) 条件文	5		グラフから情報を正しく読み取り、自分の考えを適切に書くことができる。	○		○		○

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全 体	◇説明的な文章を読んで、内容を正確にとらえたり、必要な情報を整理したりすることは、できている。 ◇◆言語事項の既習内容は、できているが、定着に課題が見られるものがある。 ◆文章の表現の仕方や特徴に注意して、読み取ったことについて説明することに課題がある。
領 域 別	<読むこと> ◇文学的な文章の内容を表現に注意しながら読み、登場人物の心情をとらえることは、できている。 ◇内容を正確にとらえ、適切な表現を指摘することは、おおむねできている。 ◆文学的な文章の表現の仕方に注意して、登場人物の心情や人間関係について説明することに課題がある。 <書くこと> ◆書かれている内容を基に、自分の考えを明確に書くことに課題がある。 <言語事項> ◇◆小学校6年生までに学習した漢字の読み・書きは、できているが、一部、定着に課題が見られる。 ◇歴史的仮名遣いや行書の書き方については、できている。 ◆文中から「主語・述語」の関係を正しくとらえることに課題がある。 ◆同音の漢字の意味の違いをとらえ、文脈に沿って適切な漢字を書くことに課題がある。
継 続 し て 見 ら れ る 課 題	◆文章の中から必要な内容を読み取り、条件に合わせて適切に表現すること ◆自分の考えを根拠を用いて、明確に書くこと ◆原稿用紙の正しい使い方 ◆漢字のもつ意味を理解して適切に使うこと

(2) 指導のポイント

<読むこと> ○目的や意図に応じて読み、必要な情報を活用する力を身に付けるために、身の回りにある情報について取り上げ、比較したり、関連付けたりしながら、自分なりの意見や感想をもたせる。 ○文章の表現の仕方や特徴に注意して、読み取ったことについて説明する力を身に付けるために、読んで考えたことについて意見を交流させる活動を取り入れる。 <書くこと> ○目的に応じて書く力を身に付けるために、「読むこと」をはじめ「話すこと・聞くこと」「言語事項」の学習においても、書く活動を効果的に取り入れることを意識する。 ○読みやすくわかりやすい文章を書く力を身に付けるために、書いた文章は必ず読み返し、推敲することを習慣化する。また、ペアやグループで検討する場面を設けるなど、学習活動を工夫する。 ○目的や意図に応じて自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、着目した点やその理由などについて互いに説明したり、質問したりする活動を取り入れる。 <言語事項> ○言葉への関心を高め、豊かな言語感覚を身に付けるために、日頃から辞書を活用し、漢字が表す意味をおさえながら、具体的な言語活動に結び付けて学習させる。 ○言葉のきまりについての定着を図るために、三領域の学習の中で取り上げることを意識する。
--

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22
	52	63	63.1	68.6

(1) - 1 「読むこと」【文学的文章】

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1 読むこと 文学的文章	問 1	「ほおがゆるんだ」とありますが、この時の灯子の気持ちとしてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア 「すてき」ということばのつかい方を間違えていたので、とてもおかしかった。 イ 「すてき」ということばは年寄りのつかうものではないので、少しとまどった。 ウ 「すてき」ということばは女性がつかうものなので、ちょっといやな気がした。 エ 「すてき」ということばが祖父のイメージと合わないので、ほほえましかった。	エ	イ		91.7	0.5	80
	問 2	「全部、自分でやるつもり」とありますが、それはなぜですか。「～から」に続くように本文中から十九字で書き抜きなさい。	お姫様の釣りあそびには絶対にしたくない	針にエサをつけるのも生きたエサであろう		86.6	3.8	70
	問 3	「さすがに、よけいな世話だとはいえなかった」とありますが、それはなぜですか。解答欄の「灯子は～から」に当てはまるように十五字以上二十一字以内で答えなさい。	(例) 生きた虫を針につけるのが本当はとてもしやだった	全部自分でやるつもりだったが竜太が用意してくれた		27.6	12.9	50
	問 4	「情報交換」とありますが、どのような情報ですか。本文中から八字以内で書き抜きなさい。	そのエサは食うな	エサは食うなって		76.0	7.1	70
	問 5	「漁師の仕事のよろこび」とありますが、灯子が実際に魚を釣って感じたことを具体的に表現している一文を探し、はじめの十字を書き抜きなさい。	食べられるものをとる	エキサイトするものだ		61.2	4.8	60

(単位：%)

結果の概要

1 資料文について

中学校1年生の灯子は、都会から父の生まれ故郷の島へ引っ越してきた。都会育ちで釣りの経験がない灯子は、この島で友だちになった女の子から釣りの話を聞き、釣りに興味を抱く。そんな時、同級生の竜太の父に釣りに連れて行ってもらうことになった。約束の日、灯子は、竜太の父や祖父、そして灯子がかかることを知らずに連れてこられた竜太とともに船に乗り込んだ。竜太は「たとえ母でも、女性は船に乘せない」と言っている父が灯子を船に乗せたことに不満を持ち、機嫌が悪かった。そんな竜太の態度を快く思わない灯子と竜太の間には、ギリギリしたものがあるが立ちこめていた。そして、いよいよ釣りが始まった。

釣りの経験がなくても甘えることなく、何でも自分でやり遂げようとする灯子だが、生きた虫をエサとして針につきさすことには閉口する。そんなとき、それまで知らん顔していた竜太が、すでにえさがついたさおをさしだしてくれたのだった。

やがて、場所を変えたことで灯子も釣れ始め、「漁師の仕事のよろこび」を体験する。

登場人物のようすや行動が生き生きと描かれ、時間の経過に伴う登場人物の心情の変化などが、同世代の生徒の興味をひきつけ、自分の経験と結びつけて読み進められる作品である。

2 設問ごとの結果

- 【問1】 「ほおがゆるむ」という慣用句の意味と、その言葉を使った表現から登場人物の心情を読み取る問題である。選択式ということもあり、正答率は91.7%と高かった。この慣用句が相手に対して好意的な言葉であるということは多くの生徒が認識できているようである。
- 【問2】 文章の内容を正確にとらえ、適切な表現を指摘することができるかを問う設問である。ここでのキーワードは「お姫様の釣りあそび」である。正答率は86.6%であり、「さおの準備からエサ付けまで全てやってもらい、自分は釣りだけをする」ということを表すこの比喩表現について、生徒は理解できていたことが分かる。
- 【問3】 正答率が27.6%と最も低かった設問である。15字以上25字以内と比較的長く、自分の表現で答えるため、無解答率も12.9%と高かった。傍線部より前の部分に「うごいているそれを、針につきさしていかなければならない」や「半分目を閉じて、とりかかろうとした」といった登場人物の心情が読みとれる表現に着目し、「よけいなお世話だとはいえなかった」理由を灯子の心情と結びつけて、記述できる力を付ける指導を工夫する必要がある。
- 【問4】 祖父が言う魚たちの会話のやりとりを「情報交換」と表現し、その「情報」の内容にあたる部分を8字で抜き出して答える問題である。誤答の多くは「えさは食うなって」であり、「エサを食べてはいけない」という読み取りはできているようだが、適切な言葉のまとまりをとらえることに課題が見られる。
- 【問5】 文章で用いられている表現について、具体的に表現されている一文を指摘できるかを問う問題である。「一文を探し、はじめの10字を」という解答の指示に反して、一文の途中から答える誤答が多かった。生徒たちは第1学年の早い時期に「言葉の単位」で「文」という単位を学ぶが、テスト等の発問においてその知識の活用と定着を図ることが大切である。

指導のポイント

- 文学的な文章で、登場人物の行動や心情、登場人物相互の関係などを正確に読み取らせる。
- 文学的な文章で、読み取ったことについて、自分の言葉で適切に表現する指導を充実させる。
- 比喩表現など特徴的な表現に着目させ、自分の読解に役立てる読み方を身に付けさせる。

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22
	76	52	54.3	72.7

(1) — 2 「読むこと」【説明的文章】

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
読むこと 説明的文章	問1	「あのカモたち」とは、どのようなカモをさしていますか。次の□にあてはまる言葉を本文中から二十三字で書き抜きなさい。(句読点は一字と数える)	一晩中、ほとんど身じろぎもせずにとたずんでいた	ひどい凍傷になり、指の何本かを失う羽目になった		50.8	17.9	60
	問2	□にあてはまる接続語として適するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。	イ			94.1	0.9	80
	問3	「秘密」とはどのようなことですか。Ⅳの段落から十六字で書き抜きなさい。	一つの体に二つの体温をもっている	巧妙な熱調整器が組み込まれていた		74.8	5.5	70
	問4	「ワンダーネット」を、次のような図に示しました。図中 a、b に流れる血液は【ア 温かい血液 イ つめたい血液】のどちらがあてはまりますか。それぞれ、ア、イの記号で答えなさい。	a ア b イ (完答)			72.0	1.1	80
	問5	「眼を見はらざるを得ない」の「眼を見はる」の意味にあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア 混乱する イ 賛成する ウ 感心する エ 注意する	ウ	エ		71.7	1.9	70

(単位：%)

結果の概要

1 資料文について

なぜ、水鳥は、寒い冬の間も冷たい水の中で凍傷にかからないのであろうか。池や湖でたたずんでいるカモやタンチョウヅルを見て、誰でも一度はそんな疑問を抱くだろう。

この文章は、そんな素朴な疑問をもった筆者が、“一つの体に二つの体温をもっている”水鳥たちの“秘密”について丁寧にわかりやすく説明している。秘密の鍵となるのは、水鳥の足にある“ワ^ンダー^ネット”という器官である。筆者は、これを「実に巧妙な熱調整器」また、「実に巧みな熱交換」と文中で繰り返し評している。筆者の驚きと感動がこめられた文調に惹きつけられながら、読み進めていくことができる文章である。

2 設問ごとの結果

- 【問1】 指示語が指し示す内容について、文中から読み取る問題である。正答率 50.8%と低めである。また、無解答率は 17.9%で、全 24 問中最も高かった。誤答は、「あの」という指示語であるにもかかわらず、指示語より後の部分から書き抜いているものが少なくなかった。また、「カモ」に続く形で書き抜けていないものがみられた。
- 【問2】 前後の文のつながりを読み取って、あてはまる接続語を選択する問題である。正答率は 94.1%である。前の文で「～にちがいない」と予想したことを、後の文で「～ない」と否定していることから、逆接の接続詞があてはまることについて、十分に理解できている。
- 【問3】 水鳥たちが低温に耐える「秘密」とは、どのようなものなのか、具体的な内容を探して答える問題である。正答率は 74.8%で、表現を言い換えている部分を読み取ることは多くの生徒ができているが、「Ⅳの段落から」という範囲の指定があるにもかかわらず、Ⅵの段落から解答している誤答があった。問題の指示を丁寧に読み、正確に答えることについて継続して指導する必要がある。
- 【問4】 “ワ^ンダー^ネット”のしくみを示した図の中で、指摘されたところの「血液」が「温かい」か「つめたい」かを答える問題である。ワ^ンダー^ネットについて説明されている部分を正確に読み取り、図と照らし合わせながら考えることが大切だが、「凍傷にかからないようにするため、足先を温めている」など、自分の感覚で思い込んでしまうと、「温かい」と「つめたい」の解答は、逆になってしまう。文章の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることについて指導する必要がある。
- 【問5】 「眼を見はらざるを得ない」の「眼を見はる」という慣用句部分の意味を選択する問題で、正答率は 71.7%である。文章全体をとおして作者の自然への驚きや感動を表す表現がみられるが、その集大成ともいえるべき最後の部分である。慣用句「眼を見はる」の意味や用法についてあまり理解していなくても、文章に書かれている内容を理解することで、この表現の意味をつかむことができる。

指導のポイント

- 説明的な文章を読むときには、内容を整理しながら読むことについて指導し、目的に応じて情報を取り出す力を身に付けさせる。
- 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことについて指導し、内容の理解に役立たせる読み方を身に付けさせる。
- 文章に書かれた内容について、図や表にしたり、それを使って説明したりする活動を取り入れる。

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22
	70	85	71.4	70.2

(2)「言語事項」

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
[3] 言語事項	1	文化祭に祖父母をマネく。	招	紹		66.9	17.1	70
	2	エイヨウのバランスを考えてメニューを決める。	栄養	栄容		79.9	8.0	65
	3	彼らはタイショウ的な性格だ。	対照	対象、対称		23.7	13.2	65
	4	災害にソナえて家族で話し合う。	備	供、洪		59.3	16.8	70
	5	自転車で日本を縦断する計画を立てる。	じゅうだん	おうだん		55.9	6.6	65
	6	博物館では貴重な資料をあつかっている。	きちょう	きじゅう		94.2	1.6	80
	7	大軍を率いてやってきた。	ひき	そつ		89.1	3.5	80
	8	図だけでなく、ことばも補う。	おぎな	ともな		83.9	5.1	80
[4] 言語事項 漢字の読み書き以外	問1	次の文中にある「カイジョウ」を漢字に改めなさい。 カイジョウは、その三十分前です。	開場	会場、開上		50.6	5.3	60
	問2	次の文は「五十歩百歩」という故事成語の説明です。同じ意味をもつことわざを一つ選び、記号で答えなさい。 ア 七転び八起き イ 石橋をたたいて渡る ウ どんぐりの背比べ エ 急がばまわれ	イ	エ		79.1	1.0	80
	問3	「見せなかった」の主語にあたる文節を記号で答えなさい。 アそれで イぼくは ウ二度と エ彼に オ獲物を 見せなかった。	イ	オ		52.8	0.9	80
	問4	次の川柳のゐても部分をすべて、現代仮名づかいで書きなさい。 寝てゐても団扇のうごく親心	いても	みても		92.1	2.3	80
	問5	次の行書の漢字を、楷書で書いたときの総画数を答えなさい。 箱 ア 十二画 イ 十三画 ウ 十四画 エ 十五画	エ	ア		84.9	0.8	70

(単位：%)

結果の概要

1 設問の意図

漢字の読み書きは、小学校で既習の学年別配当漢字からすべて出題した。また、本調査を受けた生徒が小学5年・6年のときに出題した漢字について、その後の習得状況を見るために、出題した。漢字の読み書き以外の語句に関する問題は、中学校1年生の授業も含めて、広く出題した。

2 設問ごとの結果

③ (漢字の読み書き) について <正答率 69.1%>

- 1 平成21年度学習状況調査で出題し、正答率が61.5%、無解答率は22.3%と課題が見られたので、引き続き出題した。今年度の正答率は66.9%、無解答率は17.1%で、若干の改善傾向が見られる。「招く」の誤答の多くは「紹」である。
- 2 「栄養」は生活の中でよく目にする言葉であるため、正答率は79.9%と高い傾向である。
- 3 平成21年度学習状況調査でも出題した「対照」は、同音異義語としてよく取り扱われる熟語であるが、正答率は、引き続き30%を下回っている。昨年度は、選択式だったが、今年度は、漢字の書きの問題としたので、無解答率が13.2%と高めである。
- 4 正答率は59.3%で、小5の配当漢字としては課題が見られる。「ジュンビ(準備)」は比較的答えられるが、「ソナえる」になると「備」の漢字が結びつかないという状況が見られる。
- 5 平成21年度学習状況調査で出題し、正答率は54.0%だった。今年度の正答率は55.9%で、誤答の多くが「おうだん」である状況も同様である。
- 6 「貴重」は正答率が94.2%と漢字の読み書きの問題の中で最も高かった。生徒の生活に根付いた言葉である所以だと考えられる。
- 7 8 正答率はそれぞれ89.1%、83.9%で、十分高い傾向にあるが、訓読みの漢字については、苦手とする傾向が見られるので、語彙を増やし、言語感覚を豊かにすることについて、引き続き意識して指導していきたい。

④ (漢字の読み書き以外) について <正答率 71.9%>

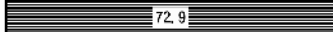
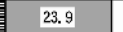
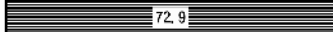
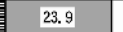
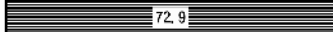
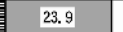
- 問1 [同音異義語]「開場」を書いて答える問題は、本調査を受けた生徒が小6だった平成20年度全国学力学習調査で出題され、正答率は42.8%であった。今年度は50.6%で、若干の改善が見られるが、まだまだ課題のある結果といえる。
- 問2 [故事成語 ことわざ] 故事成語と同じ意味のことわざを答える問題で、正答率は79.1%であった。
- 問3 [言葉のきまり] 文末「見せなかった」の主語を答える問題である。正答率は52.8%と課題が見られる。「読むこと」の指導を通して、一文における「述語」に対する「主語」が何であるかを常に意識して読ませたい。
- 問4 [古文] 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに書き直す問題で、正答率は92.1%と多くの生徒に定着が見られる。
- 問5 [行書] 平成20年度より同様の問題を出題しているが、いずれも正答率がほぼ80%を超えており、行書の特徴的な書き方である画の連続については概ね理解できている。

指導のポイント

- 同音異義語については辞書を用いた学習活動を多く取り入れながら、漢字のもつ意味や文脈における語句の意味を照らし合わせて考えさせる指導を充実させる。また、同音異字や対の意味になる漢字については、混乱しやすいので、意味の違いや使い方の例などを示して、習得を図っていく。
- 言葉の意味を考える場合、使われている漢字の「訓読み」を確認することを常に意識させる。
- ことばのきまりについては、取り出し指導以外に「読むこと」や「書くこと」の学習でも、とりあげる場面を意識して指導していく。

領域別正答率 (%)	H19	H20	H21	H22
	66	72	59.7	60.3

(3)「書くこと」

大問・領域	問 題	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率														
5 書くこと 条件作文	次にあげるグラフは、文化庁が行った「国語に関する世論調査※」における「日本語を大切にしていますか」という質問に対する年代別の調査結果です。 このグラフから読み取ったことと、それに対する自分の考えを注意に従って書きなさい。 ※世論 … 世の中の人たちの考えや意見 【注意】 ①二つの調査結果を比べて書くこと。 ②原稿用紙には、題名、氏名を書かずに、本文から書き始めること。 ③原稿用紙の正しい使い方を守ること。 ④原稿用紙に十行以上で書くこと。（書ききれない場合は、欄外に書いてもかまいません。） 質問：「あなたは、日本語を大切にしていますか。」 <table><tr><td>①大切にしている</td><td>②どちらとも言えない</td><td>③大切にしていない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 年代別の比較グラフ(%) <table><tr><td>16～19歳</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>40～49歳</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 平成二十年度 国語に関する世論調査 (平成二十一年三月 文化庁) 一部修正	①大切にしている	②どちらとも言えない	③大切にしていない				16～19歳				40～49歳					60.3	5.4	70
①大切にしている	②どちらとも言えない	③大切にしていない																	
																			
16～19歳																			
40～49歳																			

結果の概要

① 資料について

平成21年3月に文化庁が実施した「国語に関する世論調査」における「あなたは、日本語を大切にしていますか。」という質問の回答について、「16～19歳」と「40～49歳」の年代別の調査結果を表したグラフから読み取れることを挙げ、それに対する自分の考えを書く問題である。

グラフから読み取れることは、「16～19歳」「40～49歳」とともに「大切にしている」割合が70%強とほとんど変わらないこと、「16～19歳」は「大切にしていない」割合が11%で、「40～49歳」の3%と比較的差が出ていること、「どちらとも言えない」の回答の割合にも差があること、などである。

これらの調査結果について、その要因と考えられることを分析し、日本語を大切にすることへの自分の考えなどを整理していく課題である。

② 出題の意図

「16～19歳」「40～49歳」とともに「日本語を大切にしている」割合が7割を超えている。言葉の乱れがしばしば指摘される「若者」の世代である「16～19歳」の回答の割合が比較的高めであること、また、ある程度の分別が備わっていると考えられる「社会人」の世代である「40～49歳」の回答の割合とほぼ同じであることが意外であり、注目されるだろう。あるいは、「どちらとも言えない」というあいまいな（あるいは、控えめな）回答については、「40～49歳」は、比較的高いのに対し、「16～19歳」は、7ポイント以上低い。これらのことを読み取って正確に表現した上で、「16～19歳」の年代に近い生徒たちが、日頃の自分の言葉遣いや言葉に対する考えと向き合いながら、グラフに示された調査結果について自分の考えを明確にまとめていくことができる「書く力」が望まれる。

③ 結果の概要

昨年度の「条件に合わせて作文を書く」問題は、今年度と同様に「グラフから読み取ったこととそれに対する自分の考えを書く」問題で、正答率は59.7%、無解答率は4.7%であった。今年度の正答率は60.3%、無解答率は5.4%である。ほぼ、同じ傾向の調査結果である。グラフから読み取ったことは書けているが、それに対する自分の考えが書けていないという誤答が多かった。

また、小学校の既習事項である「原稿用紙の正しい使い方」については、引き続き、次のような課題が見られるので、授業をはじめ、様々な教育活動の書く場面において（例えば、委員会の連絡の原稿を書く、など）定着を図る指導の充実が必要である。

- ・ 書き出し、段落の一字下げができていない。
- ・ 「 」や句読点を正しい位置に書いていない。

さらに表現上の誤りとしては、次のような課題が見られる。

- ・ 文中の語句の係り受けや照応の乱れ
- ・ 文体の不統一（常体と敬体の混在）

指導のポイント

- 「読むこと」や「話すこと・聞くこと」の指導においても、様々な場面で書く活動を取り入れ、自分の考えを文章に書いてまとめる活動を充実させる。
- 自分の考えなどについて文章を書く際は、説得力のある文章にするために、内容を具体的に示したり、自分の考えの根拠について適切に表現したりする力を身に付けさせる。
- 「チェック表」などのワークシートを活用し、書いた文章について必ず推敲させる。その際、「原稿用紙の正しい書き方」を推敲のポイントの1つとして、常に推敲させる。